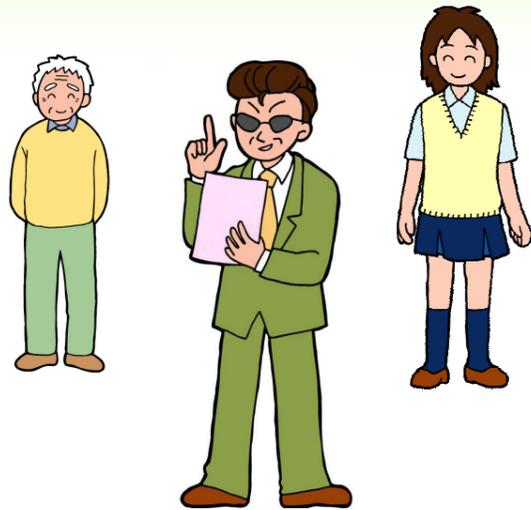


はんざい ひがい 犯罪の被害にあわないために



ここに3人の人がいます。
どの人が「不審者」か、わかりますか？
なぜそう思ったのでしょうか？
みんなで話しあってみましょう。



不審者は、服装や表情など、外見(見た目)だけで判断できません。やさしそうな顔をした人が不審者の場合もあります。「人」に注意しているだけでは犯罪の被害にあってしまうこともあります。犯罪の被害にあわないようにするためには、不審者などの「人」に注意するだけでなく、できるだけ「不審者が現れやすい場所」＝「犯罪の被害にあいそうな場所」に近づかないことが大切です。

人だけでなく
「場所」にも
注意しよう！

はんざい ひがい
「犯罪の被害にあいそうな場所」
ってどんなところ？

★誰もが「入りやすい」場所

★誰からも「見えにくい」場所

「入りやすい」ということは？

かんたんに怪しまれることなく子供に近づくことができる。
犯罪を行ったあとで、すぐ逃げることができる。

「見えにくい」ということは？

かくれて待ち伏せできる。
誰からも見えないから、警察やまわりの大人に気づかれにくい。

広島県・広島県教育委員会・広島県警察

お問合せ先

広島県環境県民局県民活動課 〒730-8511 広島市中区基町 10-52
TEL (082) 513-2744 FAX (082) 227-2549
【ホームページ】 <http://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/anzen/>

安全・安心ひろしま

検索

指導者・保護者のみなさまへ

このリーフレットの解説を上記ホームページに掲載していますのでご利用ください。

平成27年6月作成

～このリーフレットの目的～

広島県では、「不審者」などの「人」ではなく、「犯罪の被害にあいそうな場所」に着目し、それらの場所を書き込んだ地図を作製する「地域安全マップづくり」の普及・定着を推進しています。この活動は、自分たちの町の危険な場所を調べ、地図を作製することが目的ではなく、「犯罪の被害にあいそうな場所」を見つけるキーワード「入りやすい」「見えにくい」を理解して、初めて行く場所でも、「ここは安全な場所なのか、危険な場所なのか」を子供自身が判断し、それに応じて行動できる力(危険回避能力)を身につけることを目的としています。

(詳細は、ホームページ <http://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/anzen/> をご覧ください。)

このリーフレットでは、「犯罪の被害にあいそうな場所」を判断するキーワードを覚え、2枚の絵のうち、安全な場所はどこなのか、犯罪の被害にあいそうな場所はどこなのか、子供たち自身が考える演習問題を掲載しています。

ここに掲載したものは一例ですが、自分たちの町の見慣れた風景が、このキーワードを使ったらどのように説明できるか、そして犯罪の被害にあいやすい場所であることがわかった場合、どのように行動すればよいかを、授業の中や家庭で考えるきっかけにいただければと思います。

学校などで実施される不審者対応訓練に登場する「不審者」は、見た目でわかりやすくするため、サングラス・マスク・黒っぽい服装などで演出をされています。このため、子供たちに『「不審者」ってどんな人?』と質問すると、決まって、これらのアイテムで説明をします。しかし、本当にそうでしょうか。夏の浜辺にはサングラスをした人が大勢いること、冬から春にかけては風邪や花粉症でマスクをしている人が多いということを想像させると、子供たちは、これらのアイテムだけで「不審者」であるかどうかを見極めることはできないということに気付いていきます。

犯罪の被害にあわないためには、「人」に注意するだけでなく、「不審者が現れやすい場所」＝「犯罪の被害にあいそうな場所」に近づかないことが大切だということを教えてください。

「犯罪の被害にあいそうな場所」とは、「領域性」と「監視性」が低い場所です。「領域性」とは犯罪者から子供たちを遮る心理的・物理的なバリアのことで、これが高ければ、犯罪者は子供に簡単に近づけません。また、「監視性」とは犯罪を目撃される可能性のことで、これが高ければ、仮に犯罪者が子供に近づいても犯行を思いとどまる可能性が高くなります。小学生の子供たちには、理解できる簡単な言葉で、領域性が低いことを「入りやすい」、監視性が低いことを「見えにくい」と教えてください。入りやすく見えにくいとどうして犯罪の被害にあいやすいのかは、説明のとおりです。

「犯罪の被害にあいそうな場所」の反対が「安全な場所」であり、それは「入りやすい」「見えにくい」の逆ですから、安全な場所を見つけるキーワードは、「入りにくい」「見えやすい」場所だということも理解させてください。

学校は、まわりにフェンスがあって「入りにくい」から安全、地下道、トンネルや細い裏道は「入りやすく」「見えにくい」から危険…など、学校や家のまわりの簡単な事例を挙げて考えさせてみてください。

○ このリーフレットは、広島県、広島県教育委員会、広島県警察で作成・配布したものです。内容等についてご不明な点があれば、左記のお問合せ先にお尋ねください。

○ 左記ホームページでは各小学校や地域での「地域安全マップづくり」の活動も紹介しています。

問題1 どちらの道路が「安全」でしょうか？その理由も考えてみましょう。



考え方のヒント

下の文章を読み、【赤字】のうちどちらか正しい方を選んでみましょう。

①の道路は、車道と歩道がガードレールで区切られているので、

子供のそばに車が【入り(近づき)やすい・入り(近づき)にくい】。

②の道路は、車道と歩道を区切るガードレールがないので、

子供のそばに車が【入り(近づき)やすい・入り(近づき)にくい】。

だから、(①) の道路の方が安全！！

問題1の解説

そこを通ることが決められている通学路は仕方ありませんが、習い事や友だちの家に遊びに行く場合など、通る道を自分で選べる場合、より安全な道を選択できる力を付けることが大切です。

ガードレールがある道とない道の場合であれば、ガードレールがある道の方が、車に引き込まれたりする可能性が少ないので安全だということに気づき、そちらを通るよう心がけて欲しいものです。

しかし、子供たちが通るすべての道にガードレールが設置されているわけではなく、②のようにガードレールのない道を歩くことがほとんどです。その場合には、特に、

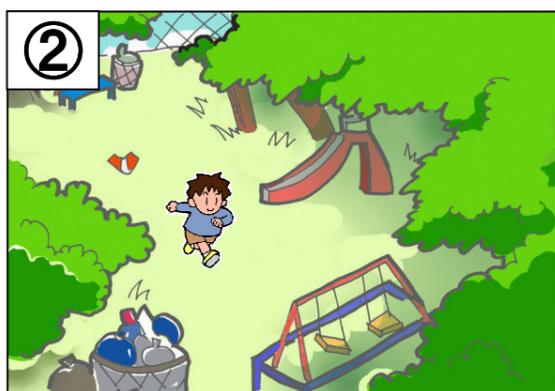
① 前後から近づく車に注意を払って歩く（ヘッドホンなどで音楽を聴きながら歩く、携帯電話を操作しながら歩くなどは大変危険です。）

② 車の中から知らない人に声をかけられても、決して車に近づかない（どれくらいの距離だと腕をつかまれて車に引き込まれる可能性があるか考えさせてください。）

③ 路上に駐車している車にも注意を払う（横を通った瞬間にドアが開けられ中に引き込まれる、といったこともあります。）

など、子供自身が気をつけて歩く必要があります。これは、大人になっても同じことです。

問題2 どちらの公園が「安全」でしょうか？その理由も考えてみましょう。



考え方のヒント

下の文章を読み、【赤字】のうちどちらか正しい方を選んでみましょう。

1 ①の公園は、金網のフェンスで囲まれているので、

中で遊んでいる子供が、まわりの大人から【見えやすい・見えにくい】。

②の公園は、植木がおおいげっているので、

中で遊んでいる子供が、まわりの大人から【見えやすい・見えにくい】。

2 ①の公園は、きれいにそうじされている。

それは、地域の人が【関心を持ってよく見ている・関心がなくてあまり見ていない】。

②の公園は、ゴミがちらかっている。

それは、地域の人が【関心を持ってよく見ている・関心がなくてあまり見ていない】。

だから、(①) の公園の方が安全！！

問題2の解説

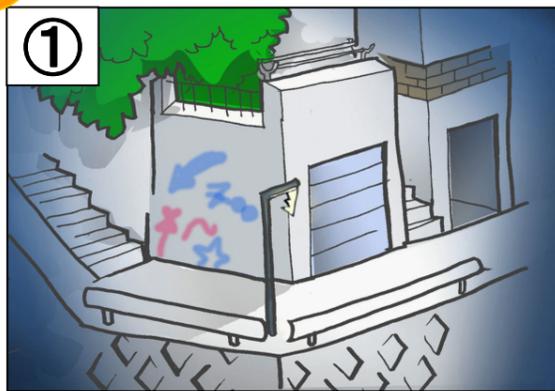
「どちらの公園にも1人で遊んでいる子供がいます。悪いことをしようとする人間は、①、②のどちらの公園の子供に近づいていくでしょうか？」と問いかけてみてください。

悪いことをしようとする人間は、①のように周囲から「見えやすい」状況では、「誰かに見られているかもしれない。」「何かしたら警察に通報されるかもしれない。」とあって犯行を思いとどまる可能性が高く、②のようにかくれて待ち伏せしやすく、周りから見えにくい方を好みます。

また、①のようにゴミの落ちていない公園は、決して自然にゴミがなくなるわけではなく、常に誰かが公園を掃除したり、草刈りしたりするなどをして管理しているということです。このように管理された公園は、人の目が行き届いているので、悪いことをしようとする人間も、「誰か（管理する人）が来るかもしれない。」と思い、犯行を思いとどまらせます。逆に、②のように、ゴミが散乱したままの公園であれば、「ここには誰も来ない。」「ここで何をしても、誰も注意しない。」とあります。このようにゴミが散乱している場所は、さらに多くのゴミが捨てられはじめ、それによって人が近づかなくなり、まわりからいっそう「見えにくい（見られにくい）場所」となっていきます。自分たちの町をこのような地域にしないために、自分たち一人一人がむやみにゴミを捨てない、地域の清掃活動等に積極的に参加するなど、環境の改善にも目を向けて欲しいものです。

なお、最後にも出てきますが、そもそも、できるだけ一人では遊ばないことも重要です。

問題3 どちらの道路が「安全」でしょうか？その理由も考えてみましょう。



考え方のヒント

下の文章を読み、【赤字】のうちどちらか正しい方を選んでみましょう。

①の道路は、高い塀や植木があるので、家の中から【見えやすい・見えにくい】

街灯が壊れていて、夜は【見えやすい・見えにくい】。

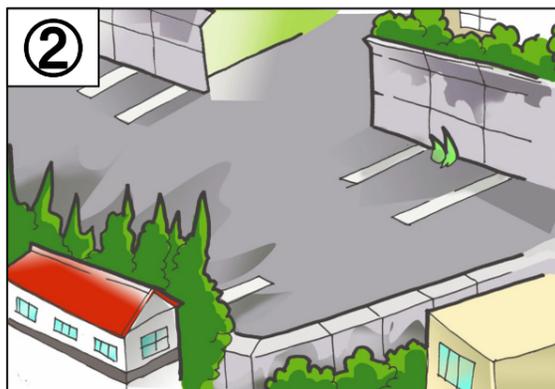
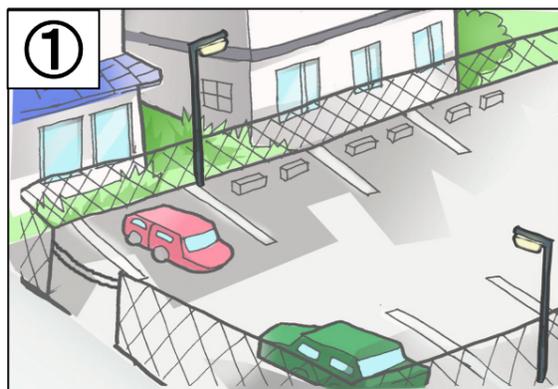
壁のらくがきが消されていないのは、その家の人や地域の人が【関心を持ってよく見ている・関心がなくてあまり見ていない】から。

②の道路は、家の窓に面していて、家の中から【見えやすい・見えにくい】。

街灯があって、夜は【見えやすい・見えにくい】。

だから、(②) の道路の方が安全！！

問題4 どちらの駐車場が「安全」でしょうか？「入りやすい」「見えにくい」を使って説明してみましょう。



考え方のヒント

「入口」「フェンス・塀・植木」「街灯」に着目して、考えてみましょう。

①の駐車場は、入口にチェーンがあって入りやすく、②の駐車場は、入口にチェーンがないので誰でも入りやすい。

①の駐車場は周りが金網のフェンスに囲まれているので、周りの家から見えやすい。②の駐車場はブロック塀や植木で

囲まれているので、周りの家から見えにくい。①の駐車場には街灯があって、夜でも見えやすい。②の駐車場は街灯が

ないので、夜になると真っ暗になって見えにくい。だから、(①) の駐車場の方が安全！！

ここまでのまとめ

「犯罪の被害にあいそうな場所」には、できるだけ近づかないようにしましょう。どうしても行かないといけない場合は、大人の人や友だちと一緒にいくなど、できるだけ一人では行かないようにしましょう。また、一人で行かないといけない場合には、自分自身がまわりによく注意して歩くようにしましょう。

問題3の解説

問題2と同じく「見えにくい」「見えやすい」を使って説明する問題です。問題1でガードレールを取り上げているので、①のガードレールに着目するかもしれませんが、①のガードレールは崖からの落下防止の柵であり、車に引き込まれることを防いでくれるものではありません。

また、街灯があれば絶対安全、とは言い切れませんが、街灯のある道路とない道路のどちらを通った方がよいかは、どちらが見えやすいかで判断できると思います。また、窓に面している②の道路でも、必ずしも家の中の人々が道路を意識して見ているわけではないですが、悪いことをしようとする人間に、「誰かに見られているかもしれない」と思わせるだけで、抑止効果はあると言われています。

問題4の解説

駐車場は本来遊ぶ場所ではないので、子供は立ち入らないことが原則です。車の出入りもあり、交通事故防止の観点からも、絶対に駐車場で遊んではいけません。ここでは、「もしおうちの人の大事な車を停めておくとしたら、どちらの駐車場が安全でしょうか？」と問いかけてみてください。

①のように、入口にチェーンがあり入りやすく、金網のフェンスでまわりから見えやすい、また、夜は街灯があって明るく見えやすい駐車場であれば、車上ねらい(車の中のものを盗まれたりすること)にあう可能性も低くなります。逆に②のように、誰でも簡単に入れて、昼間でも周りから見えにくく、夜になると真っ暗になってさらに見えにくくなる駐車場では、車上ねらいにあう可能性が高くなります。将来、駐車場を借りる場合や外出先で車を停める場合、どのような駐車場なら大切な車を守ることができるか、また車に乗り降りする自分の安全を守ることができるか、考えて行動できる力を付けてほしいと思います。

また、これが駐車場ではなく空き地であり、遊んでよい場所であったとしても、②のように高い塀や植木で囲まれて見えにくい場所であれば、悪いことをしようとする人に出会っても、誰にも気付いてもらえず、犯罪の被害にあう可能性が高くなるので注意が必要です。

～ここまでのまとめ～

問題1から4を終えて、「犯罪の被害にあいそうな場所」を見分ける力が付いたとしても、それが分かっただけでどのように行動するかが最も大切な事です。子供は、常に安全な環境の中だけで生活していける訳ではありません。「犯罪の被害にあいそうな場所」にむやみに近づかない配慮が子供たち一人一人に必要です。道や遊び場など、複数の選択肢があるのであれば、より安全な方を判断できる力を育て、そちらを選択することが重要です。また、危険だとわかっている場合、公園のトイレや裏道など、どうしても利用しなければならない場合もあります。その場合は、まず、できるだけ複数で行くこと、そしてどうしても一人で利用しなければならない場合には、自分自身が細心の注意を払う必要があるということを指導してください。



「いかのおすし」

知らない人について **い**かない

「かわいいうさぎがいるよ。」「おもしろいゲームをあげるよ。」などと声をかけられても、絶対に**い**かないでください。



知らない人の車に **の**らない

「家まで乗せて帰ってあげよう。」などと声をかけられても、絶対に乗ってはいけません。車の中から話しかけられても、車に近づかないようにしましょう。



何かあったら **お**おごえをだす

いざというときに、「たすけて」と大きな声で叫んだり、防犯ブザーを鳴らせるように、ふだんから練習しておきましょう。防犯ブザーの電池もチェックしておきましょう。



何かあったら **す**ぐ逃げる

「子ども110番の家」や、お店などがどこにあるか確認しておきましょう。でも、いざとなったら、とにかく近くの大人の人に助けを求めることが大切です。



大人の人に **し**らせる

自分やお友だちが不審な人に声をかけられたり、こわい思いをしたときは、おうちの人や先生にすぐに知らせましょう。おうちの人や先生はみんなを守ってくれる人です。



そのほかにも



外で遊ぶときは、できるだけ一人では遊ばないようにしましょう。



出かけるときは、「どこへ」「だれと」行くのか、おうちの人に言う前から、でかけましょう。

「犯罪の被害にあいそうな場所」に近づかなくても、不審者などに遭遇してしまうこともあります。その場合に必要なのは、子供たち自身が危険をはねのける力（抵抗性）をつけておくことです。

「いかのおすし」はこの抵抗性をおぼえやすくした合言葉です。「いか・の・お・す・し」がそれぞれ何を意味しているのか、きちんと覚えて、何かあった時には実行できるようにしましょう。

顔も名前も知らない人について行ってはいけない、車に乗ってはいけないということは、子供も簡単に判断できます。しかし、名前は知らないけど登下校時によく話をするおじさんやお友達のお母さんは「知らない人」にあたるのかどうか、子供自身が判断するのは難しいことです。ついていってもいい人や車に乗せてもらってもいい人が具体的に誰なのか（おうちの人だけ、おうちの人と〇〇くんのお母さんだけなど）を、子供自身がおうちの人とよく話をして理解しておくことが大切です。

また、「この場所を教えて欲しい」などと地図を見せながら車の中から話しかけられても、むやみに近づかず、一定の距離（概ね1.2m）を保つことが必要です。これは歩いている人についても同じことです。

怖い思いをしたとき、とっさに大声を出すのは難しいものです。普段から大声を出す習慣がないと特に出ないかもしれません。時々、大声を出す練習もしてください。防犯ブザーやホイッスルも大声の代替手段として有効ですが、いざというときに使えないとまったく意味がありません。防犯ブザーやホイッスルをどこにつけておくか、どこなら鳴らしやすいか、考えて利用しましょう。また、登下校時だけでなく、一人で遊びに行く時や習い事に行くときなどにも携帯しておくよう心がけましょう。

地域には「子ども110番の家」や「子ども110番の店」など、子供たちを守ってくれる大人がたくさんいます。自分たちのまわりに、どれだけ「子ども110番の家」や店があるか調べてみるのもよいかもしれません。ただし、いざというときに「子ども110番の家」や店でないと逃げ込んだらいけないわけではないこと、何よりも近くの大人の人に助けを求めることが重要だということを理解させてください。

怖い目にあった時はもちろんですが、おかしいな…と思うことがあったら、おうちの人や先生に知らせるようにしておきましょう。おうちの人や先生方は子供たちの話をよく聞いて、対応してあげてください。学校や警察に連絡した方がよいと判断された場合には、速やかに連絡してください。

公園や空き地で一人で遊んでいると、不審者に狙われやすい可能性があります。特に「入りやすく、見えにくい」公園や空き地などは危険です。友達と一緒に遊んでいても、帰り道は一人になることもあります。一人で歩く時は、できるだけ安全な道を通るよう心がけ、細心の注意を払って歩くよう指導してください。

また、外出する時は、誰とどこに行って何時に帰るのかを伝え、帰宅時間の約束を必ず守ることが大切です。10分、15分遅れただけでも、おうち的人是心配するのだということを子供にも知っておいて欲しいものです。